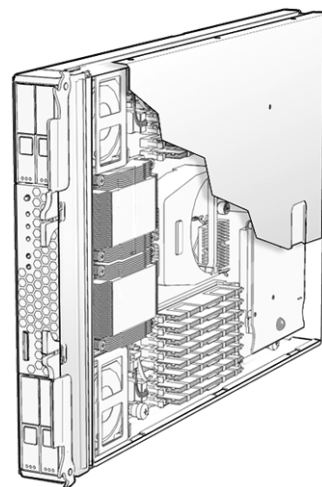


Sun Blade™ X6250

サーバーモジュールの Windows オペレーティング システムインストールガイド



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-2418-10
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布物には、サードパーティによる情報が含まれることがあります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, Sun Blade は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays sous licence exclusive de X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Blade sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

目次

はじめに ix

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 2

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 4

Sun Blade X6250 モジュールの CD 4

2. インストール手順 5

Windows のインストール方法 6

ドングルケーブルの接続 7

3. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 9

4. 取得方法の選択 11

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 12

Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択 13

5. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備 15

ドライバフロッピーディスクの作成 16

Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成 16

Linux または Solaris を使用したドライバフロッピーディスクの作成 21

6. JavaRConsole システムの設定	23
JavaRConsole システムの要件	24
リモートコンソールアプリケーションの起動	25
▼ リモートコンソールアプリケーションを起動する	25
▼ リモートコンソールのパラメータを設定する	26
キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクト	27
▼ キーボードとマウスデバイスをリダイレクトする	27
▼ ストレージデバイスをリダイレクトする	28
7. Windows Server 2003 のインストール	31
インストール要件	31
オペレーティングシステムのインストール	33
8. 重要なシステム固有のドライバのアップデート	41
システム固有ドライバのアップデート	42
オプションコンポーネントのインストール	45
9. RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み	49
必要なドライバの確認	49
RIS イメージへのドライバの追加	50
索引	53

図一覧

- 図 2-1 ドングルケーブルの接続 7
- 図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」
ダイアログボックス 18
- 図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 18
- 図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ 19
- 図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 20
- 図 6-1 キーボード、ビデオ、マウスの選択 28
- 図 6-2 「Device Configuration (デバイス設定)」ウィンドウ 30
- 図 7-1 F8 のプロンプト 33
- 図 7-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニュー 34
- 図 7-3 追加デバイスの指定画面 35
- 図 7-4 SCSI アダプタの選択画面 36
- 図 7-5 追加デバイスの指定画面 37
- 図 7-6 Windows セットアップの起動画面 38
- 図 7-7 ディスクの取り出しメッセージ 38
- 図 8-1 Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックス 42
- 図 8-2 Install Pack (インストールパック) ダイアログボックス 43
- 図 8-3 Sun Blade インストールウィザード 43
- 図 8-4 End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書) 44
- 図 8-5 インストール完了画面 44
- 図 8-6 システム設定変更画面 45

- 図 8-7 オプションコンポーネントのダイアログボックス 46
- 図 8-8 Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックス 47

表一覧

表 2-1	インストール要件	5
表 4-1	大容量記憶装置ドライバの取得方法	12
表 4-2	Windows Server 2003 のメディアの取得方法	13
表 5-1	大容量記憶装置ドライバの取得方法	15
表 7-1	各インストール方法の要件	32
表 9-1	RIS インストール用 Sun Blade X6250 サーバーモジュール固有のドライバ	49
表 9-2	Sun Blade X6250 サーバーモジュールの .sif ファイルの変更	51

はじめに

本書『Sun Blade X6250 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステム インストールガイド』(820-2418-10) では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

関連ドキュメント

Sun Blade X6250 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris™ および他のソフトウェアのマニュアルについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	dir を使用してすべてのファイルを表示します。
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> ipconfig Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、del <ファイル名> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6250 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-2418-10

概要

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server 2003 のインストールを開始する前に、この章の以降の部分に必ず目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- [「Windows Server 2003 のインストールについて」](#) (2 ページ)
- [「インストールに関する重要な考慮事項」](#) (2 ページ)
- [「サポートされている Windows オペレーティングシステム」](#) (4 ページ)

Windows Server 2003 のインストールについて

Sun Blade X6250 サーバーモジュールには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明します。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Blade X6250 サーバーモジュールへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、ブートドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時に最も注意すべき点は、Sun Blade X6250 サーバーモジュールで使用されるディスクコントローラ用に、大容量記憶装置ドライバを取得することです。Microsoft Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。

Windows の場合、フロッピーディスクを介して大容量記憶装置ドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピーディスクドライブ A からのみ、大容量記憶装置ドライバを読み込むことができます。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。

注 – 大容量記憶装置ドライバは、RAID Expansion Module (REM) を装備したシステムにのみ必要です。システムに REM が装備されていない場合は、大容量記憶装置ドライバに関する説明をすべて無視してください。

- Windows Server 2003 のインストール用のドライバは、次の 2 つの方法で取得できます。
 - Sun Blade X6250 サーバーモジュールに物理的に接続された USB フロッピーディスクドライブを使用します。
 - RKVMS¹ を使用して、JavaRConsole² が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) の物理フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- また、インストール用の Windows Server 2003 のメディアは、次の 3 つの方法で取得できます。
 - Sun Blade X6250 サーバーモジュールに物理的に接続された DVD/CD ドライブを使用します。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

第 2 章のインストール手順に従うと、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

注 – RKVMS を使用してインストールする場合は、どの方法でも、『*Embedded Lights Out Manager (Embedded LOM) Administration Guide (Embedded Lights Out Manager (Embedded LOM) 管理ガイド)*』(820-1253) で、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を確認する必要があります。

1. RKVMS-リモートのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ。ネットワークに接続されたシステムを介して、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを可能にします。

2. JavaRConsole-ネットワークに接続されたシステムから実行されるリモートコンソール。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Blade X6250 サーバーモジュールは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、Sun Blade X6250 サーバーモジュールの次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6250/os.jsp>

Sun Blade X6250 モジュールの CD

本書は Sun Blade X6250 サーバーモジュールを対象としています。インストールは、製品プラットフォームによって部分的に異なります。

インストール手順

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールするために実行する手順の概要を説明します。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、[第 9 章の「RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み」\(49 ページ\)](#)を参照してください。

表 2-1 にインストール要件をまとめます。

表 2-1 インストール要件

項目	ローカル	リモート
Windows Server 2003 のインストールメディア	必須	必須
Sun Blade X6250 サーバーモジュールインストールメディア (ダウンロード、ツールとドライバの CD)	必須	必須
フロッピーディスク	REM にのみ必須	REM にのみ必須
注 – フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブは、RAID Expansion Module (REM) を装備したシステムに大容量記憶装置ドライバをインストールするために必要です。REM を装備していないシステムには不要です。		
キーボード、モニタ、マウス	ドングル/USB ハブに接続	ローカルコンピュータに接続
ドングルケーブル	ローカルにのみ必須	不要

表 2-1 インストール要件 (続き)

項目	ローカル	リモート
USB ハブ	ドングルケーブルの USB コネクタに接続	不要
CD/DVD ドライブ	USB CD/DVD ドライブを USB ハブに接続	CD/DVD ドライブをローカルコンピュータに接続 CD イメージのインストールには不要です。代わりに .iso ファイルを使用してください。
フロッピーディスクドライブ (REM にのみ必須)	USB フロッピーディスクドライブをドングルケーブルの USB コネクタに直接接続	フロッピーディスクドライブをローカルコンピュータに接続

ドングルケーブルと USB デバイスの接続方法については、「[ドングルケーブルの接続](#)」(7 ページ)を参照してください。

Windows のインストール方法

Windows を CD メディアから Sun Blade X6250 サーバーモジュールにインストールする場合は、次の手順をこの順序で実行します。

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#) (第 3 章を参照)。
2. [取得方法の選択](#) (第 4 章を参照)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備](#) (第 5 章を参照)。
4. [JavaRConsole システムの設定](#) (必要に応じて、第 6 章を参照)。
5. [Windows Server 2003 のインストール](#) (第 7 章を参照)。
6. [重要なシステム固有のドライバのアップデート](#) (第 8 章を参照)。

この手順を完了すると、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを正常にインストールできているはずです。

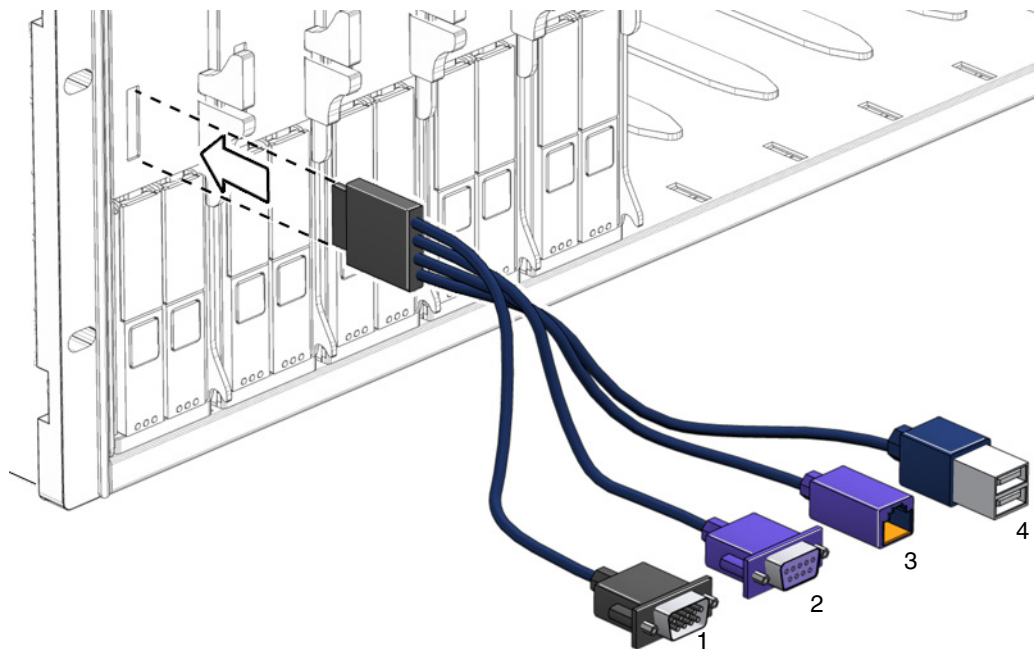
ドングルケーブルの接続

ローカルインストールを選択した場合は、ドングルケーブルをサーバーモジュールに直接接続する必要があります。

ドングルケーブルの接続方法を図 2-1 に示します。

1. USB フロッピーディスクドライブをドングルケーブルの USB ポートの 1 つに直接接続します。
2. USB ハブを他方のポートに接続します。
3. キーボード、マウス、および CD ドライブを USB ハブに接続します。

図 2-1 ドングルケーブルの接続



図の説明

- 1 DB9 シリアルコンソールからサーバーモジュール ILOM
- 2 VGA ビデオコネクタ
- 3 10/100M ビット Ethernet - サポートされていません。シャーシ上の Ethernet ケーブルを使用してください。
- 4 デュアル USB コネクタ

サーバー固有のドライバパッケージ のダウンロード

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – ツールとドライバの CD がある場合は、この章をスキップして第 4 章に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。

次に、Windows Server 2003 のインストールに使用できるサーバー固有のドライバパッケージを示します。

- InstallPack.exe (すべてのシステム固有のデバイスドライバをインストールするプログラム)
- FloppyPack.zip (ドライバおよび AMI 仮想フロッピーディスクドライバのみ)
- DriverPack.zip (上級者向けの Windows Server 2003 のシステム固有のドライバのアーカイブで、英語版)。第 9 章で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. ドライバのダウンロードサイトに移動します。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールの場合

<http://www.sun.com/servers/blades/x6250/downloads.jsp>

2. ユーザー名とパスワードを使用してログインします。

3. 次のいずれかの手順を実行します。

- Windows Server 2003 のメディアをインストールする場合は、インストール中にアクセスできるハードドライブまたはメディアに、FloppyPack.zip と InstallPack.exe の両方のファイルをダウンロードします。
- PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする場合 (上級者向け) は、PXE サーバーに DriverPack.zip ファイルをダウンロードします。

4. オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。第 4 章に進み、取得方法を選択します。

取得方法の選択

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「[大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)」(12 ページ)
2. 「[Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択](#)」(13 ページ)
3. **選択した取得方法をメモしてから、第 5 章に進みます。**

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

注 – 大容量記憶装置ドライバは、REM を装備したサーバーモジュールにのみ必要です。サーバーモジュールが REM を装備していない場合は、このセクションを読む必要はありません。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールで Windows Server 2003 をインストールするために必要な大容量記憶装置ドライバは、次の 2 つの方法で準備できます。

- **フロッピーローカル:** Sun Blade X6250 サーバーモジュールにドングルケーブルで物理的に接続された USB フロッピーディスクドライブを使用します。
- **フロッピーリモート:** RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作している別のシステムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。

表 4-1 で、お使いの環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	<ul style="list-style-type: none">• 次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows (Windows 専用)」* と表示されている USB 外付けフロッピーディスクドライブ: http://testedproducts.windowsmarketplace.com/• フロッピーディスク	簡単
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6250 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートと接続されたフロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム• フロッピーディスク	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。

* Windows 専用の USB フロッピーディスクドライブを使用しないと、OS のインストールでドライバがインストールされたように見えても、システムのリポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライバが見つからず、エラーメッセージが表示されてインストールが正常に終了しません。

Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択

Sun Blade X6250 サーバーモジュールで Windows Server 2003 をインストールするために必要な Windows メディアは、次の 3 つの方法で取得できます。

- Windows ローカル: Sun Blade X6250 サーバーモジュールにドングルケーブルで物理的に接続された DVD/CD フロッピーディスクドライブを使用します。
- Windows リモート: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムに物理的に接続された CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- Windows イメージ: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 4-2 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-2 Windows Server 2003 のメディアの取得方法

大容量記憶装置ドライブの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	物理 CD ドライブをサーバーモジュールに接続するには、システムに付属のドングルケーブルを使用して USB ハブを接続します。 そうすることでキーボード、マウス、および CD/DVD を接続できるようになります。次の Windows Marketplace サイトを参照して、CD/DVD ドライブが「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されていることを確認してください。 http://testedproducts.windowsmarketplace.com	簡単
Windows リモート	Sun Blade X6250 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートと接続された CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Blade X6250 サーバーモジュール管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

大容量記憶装置ドライバ取得の準備

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。

注 – システムに REM が装備されていない場合は、大容量記憶装置ドライバは不要です。この章読む必要はありません。

第 4 章で選択した方法に応じて、この章で説明するいずれかの手順に従うか、ツールとドライバの CD を使用します。表 5-1 を参照してください。

表 5-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	手順記載セクション
フロッピーローカル	「 ドライバフロッピーディスクの作成 」を参照するか、ツールとドライバの CD を使用します。
フロッピーリモート	「 ドライバフロッピーディスクの作成 」を参照するか、ツールとドライバの CD を使用します。

ドライバフロッピーディスクの作成

フロッピーローカルまたはフロッピーリモートの方法で取得する場合は、Windows のインストールを続行する前に、ドライバを保存したフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム設定などが使用できることを確認してください。

- フロッピーディスクデバイスが接続されたシステム。この場合は USB ハブが必要になることがあります。詳細は表 4-2 を参照してください。
- フロッピーディスク
- FloppyPack.zip (このパッケージの入手についての詳細は、第 3 章を参照)

使用しているシステムに対応する次のいずれかの手順に従ってフロッピーディスクを作成します。

- [Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成](#)
- [Linux または Solaris を使用したドライバフロッピーディスクの作成](#)

Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成

1. ドライバフロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
- ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
 - a. 必要に応じ、指示に従ってフロッピーディスクデバイスを接続した Windows システムにツールとドライバの CD を挿入します (表 4-2 を参照)。
 - b. FloppyPack ファイルが保存されている次のフォルダに移動します。

```
windows\w2k3\packages\FloppyPack
```
 - c. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. Microsoft Windows ソフトウェアを使用中でフロッピーディスクデバイスが搭載されているシステムで、FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。

- c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - d. FloppyPack.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。¹
 - f. ファイルを新しい（空の）フォルダに解凍します。
2. 「**自動作成の実行**」または「**手動作成の実行**」の手順に従って、ドライバフロッピーディスクを作成します。

自動作成の実行

この方法では、ドライバフロッピーディスクが自動的に作成されます。

自動作成を実行するには、次の手順に従います。

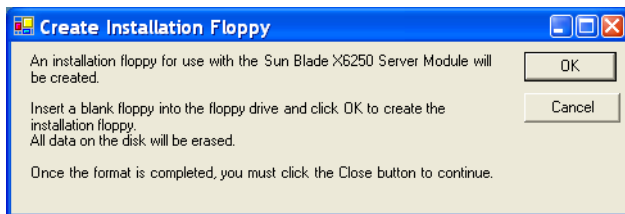
1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動し、解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
3. Windows エクスプローラで、解凍されたファイルのあるディレクトリを開き、mkfloppy.exe をダブルクリックします。

注 – アプリケーションが起動しない場合は、mkfloppy.exe アプリケーションと同じフォルダにある README.RTF ファイルを確認してください。

4. 「**Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)**」ダイアログボックスが表示されます。

1. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

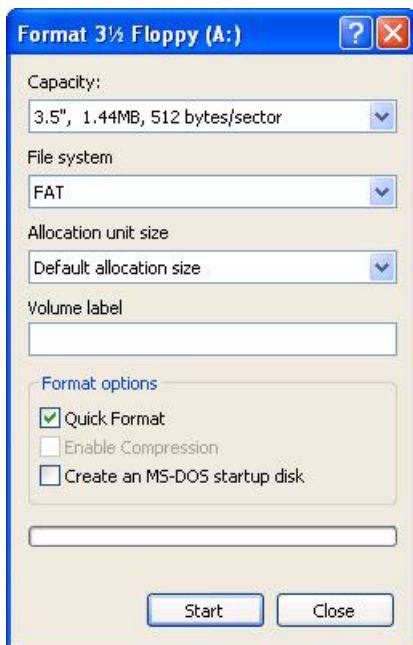
図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス



5. 「OK」をクリックします。

「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス



6. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。

この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。

7. 警告が表示されたら「OK」をクリックします。

フォーマットが開始されます。フォーマットが終了したら「Format Complete (フォーマット完了)」メッセージが表示されます。

8. 「OK」をクリックし、次に「Close (閉じる)」をクリックします。

フロッピーディスクにファイルをコピーしていることを示す「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージが表示されます。

- 図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ



9. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。
大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクが作成されます。
10. [第 6 章](#)に進みます。

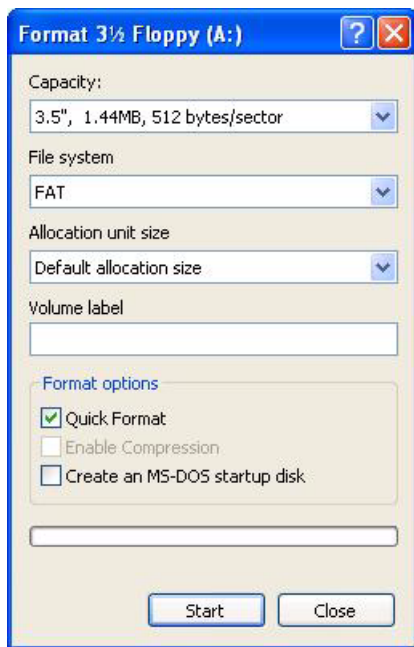
手動作成の実行

この方法では、ドライバフロッピーディスクの作成に必要な各手順をユーザーが実行する必要があります。

手動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. フロッピーディスクを挿入したフロッピーディスクドライブを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
4. 「フォーマット」を選択します。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」 ダイアログボックス



5. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。
6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
7. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
8. 「編集」メニューの「すべて選択」をクリックします。
9. マウスの左ボタンを押したまま、選択したファイルをフロッピーディスクドライブにドラッグ&ドロップします。²
大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクが作成されます。
10. 第 6 章に進みます。

2. Winzip を使用してファイルを解凍した場合は、ディレクトリ構造が保持されないので、ファイルをドラッグ&ドロップしないでください。

Linux または Solaris を使用したドライバ フロッピーディスクの作成

次に、Linux または Solaris システムを使用してドライバフロッピーディスクを作成する場合の手順を示します。

Linux または Solaris システムを使用してドライバフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/packages/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - d. ツールとドライバの CD から /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```
 - b. 次のいずれかの手順を実行します。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. メディアをマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルをシステムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_0_6.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
 - ファイルを直接システムにダウンロードした場合

- i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。
% `cp directory/FloppyPack_1_n_n.zip /tmp`
directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードしたシステム上のディレクトリを指定します。*n_n* はバージョン番号です。
 - c. /tmp ディレクトリに移動します。
% `cd /tmp`
 - d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。
次に例を示します。
% `unzip FloppyPack_1_n_n.zip`
これによって、新しい *files* ディレクトリが作成されます。
2. *files* ディレクトリに移動します。
% `cd /tmp/files`
 3. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
 4. フロッピーディスクをシステムにマウントします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris の場合
% `volcheck`
Linux の場合
% `mkdir /mnt/floppy`
% `mount /dev/fd0 /mnt/floppy`
 5. *files* ディレクトリのファイルおよびフォルダをドライブフロッピーディスクにコピーします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris の場合
% `cp -r * /floppy/floppy0`
Linux の場合
% `cp -r * /mnt/floppy`
 6. [第 6 章](#)に進みます。

JavaRConsole システムの設定

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法を説明します。

注 – 第 4 章でフロッピーローカルおよび Windows ローカルの両方の取得方法を選択した場合は、第 7 章、Windows Server 2003 のインストールに進みます。

このセクションの目的は次のとおりです。

- メディアがあるシステムからサーバーモジュールの Embedded LOM にアクセスします。
- サーバーモジュールの Embedded LOM とメディアがあるシステムの間には RKVM 接続を設定します。
- サーバーモジュールの Embedded LOM がこれらのメディアを検出するように設定します。

終了したら、第 7 章の説明に従って Windows をインストールできます。

第 4 章で大容量記憶装置ドライバまたは Windows メディアを取得する次の方法のいずれか 1 つを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。

- フロッピーリモート
- Windows リモート (CD/DVD)
- Windows イメージ (.iso file)

注 – 次に進む前に、CD/DVD ドライブとフロッピーディスクドライブがシステムに接続されていることを確認します。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole システムが次の要件を満たしている必要があります。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされている。
- Sun Blade X6250 シリーズの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されている。
- Java ランタイム環境 (JRE) 6.0 以降がインストールされている。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が物理に接続されたフロッピーディスクドライブ、CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にしている。
- JavaRConsole システムで Windows Server を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にしている。
- JavaRConsole システムと Embedded LOM サービスプロセッサが設定されている。

注 – 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細は『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』(820-1253) を参照してください。

リモートコンソールアプリケーションの起動

下の手順で、WebGUI からリモートコンソールアプリケーションを起動します。一連の問い合わせが表示される場合は、各問い合わせに対して「Run(実行)」を選択します。

注 - 各 Embedded LOM システムには、デフォルトで DHCP が設定されています。IP アドレスが 5 秒以内に見つからない場合は、デフォルトで 192.168.1.2 が指定されてすぐに Web にアクセスできます。

▼ リモートコンソールアプリケーションを起動する

1. Web ブラウザを開きます。
2. アドレスバーに Embedded LOM の IP アドレスを入力します。
ログイン画面が表示されます。
3. デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名: root
パスワード: changeme
4. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
「System Information (システム情報)」画面が表示されます。
「System Information (システム情報)」タブ、「System Monitoring (システム監視)」タブ、「Configuration (設定)」タブ、「User Management (ユーザー管理)」タブ、「Remote Control (リモートコントロール)」タブ、および「Maintenance (メンテナンス)」タブが表示されます。
5. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
6. 「Redirection (リダイレクト)」を選択します。
画面に「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンが表示されます。
7. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。
「hostname mismatch (ホスト名の不一致)」メッセージが表示されます。
8. 「Run (実行)」をクリックします。
他のセキュリティメッセージが表示されることがあります。

9. 状況に応じて「Run (実行)」、「OK」、または「Yes (はい)」をクリックします。

注 – Firefox および Mozilla Web ブラウザを使用するシステムでは、Java RTE のバージョンが 1.6 以降である必要があります。

Web ブラウザにより埋め込みのリモートコントロールアプリケーションが自動的にダウンロードされ、「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されます。

「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されない場合は、Web ブラウザのセキュリティコントロールによりブロックされている可能性があります。必要に応じてセキュリティのレベルを低くして、リモートコンソールが表示されるようにします。

画面のフォーマット変更については次のセクション、「[リモートコンソールのパラメータを設定する](#)」(26 ページ)で説明します。

▼ リモートコンソールのパラメータを設定する

このセクションでは、ビデオの品質と画面サイズの設定方法とリモートコンソール用のホットキーの設定方法を説明します。

1. システム管理ソフトウェアの画面の「Remote Control (リモートコントロール)」タブで「Hotkey Setup (ホットキーの設定)」を選択します。

「User Profile (ユーザープロファイル)」画面が表示されます。

その次の画面に出力画面のバージョンが表示されます (Java Webstart アプリケーションを起動しておく必要があります)。

- a. このアプリケーションをインストールして正常に動作させるためには、アプリケーションをはじめて起動したときにいくつかのセキュリティに関する質問に応答する必要があります。
- b. 右クリックして、リモートコンソールを全画面に表示します。

デフォルトでは、2つのマウスカーソルが同期されており、リモートコンソール画面には1つのマウスだけが表示されます。

マウスカーソルが画面から消えたときはローカルカーソルが有効になり、他方のカーソルはリモートコンソール画面に留まります。

WebGUI の設定またはリモートコンソール画面でユーザーモードを有効にすることができます。

2. 正常にログインすると、リモートコンソール画面が表示されます。

リモートコンソールアプリケーションが起動します。ビデオとキーボードは、デフォルトで有効になります。通常はマウスのリダイレクトのみを有効にします。これで、リモートコンソールアプリケーションを使用してサーバーのオペレーティングシステムを起動できます。

注 – I/O およびストレージデバイス (CD-ROM およびフロッピーディスクドライブ) を有効または無効にする方法については、「[キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクト](#)」(27 ページ) を参照してください。

キーボード、ビデオ、マウス、および ストレージデバイスのリダイレクト

リモートコンソールアプリケーションでは、次の種類のデバイスのリダイレクトがサポートされます。

- ビデオ品質の表示 – サーバーのビデオ出力がローカルコンソール画面に自動的に表示されます。
- ホットキー – 1 つのキーで一連のキーストロークを実行できます。
- キーボードとマウスデバイス – 標準のキーボード、マウス、およびその他のポインティングデバイス。
 - キーボードのリダイレクトはデフォルトで有効です。
 - マウスのリダイレクトは手動で有効にする必要があります。
- ストレージデバイス – CD/DVD ドライブ、フラッシュ、DVD-ROM またはフロッピーディスクドライブ、ハードドライブ、または NFS。

▼ キーボードとマウスデバイスをリダイレクトする

ローカルワークステーションまたはラップトップのキーボードとマウスをリモートの Sun Blade X6250 サーバーモジュールにリダイレクトするには、次の手順に従います。

1. 「[リモートコンソールアプリケーションの起動](#)」(25 ページ) の説明に従って、リモートコンソールアプリケーションを起動します。
2. システム管理ソフトウェアの起動画面で「**Remote Control** (リモートコントロール)」タブをクリックします。

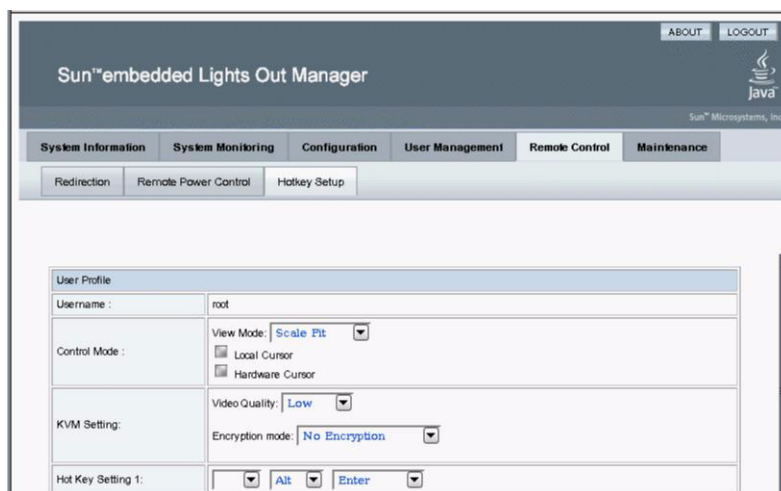
3. 「Hotkey Setup (ホットキーの設定)」タブを選択します。

「Hotkey Setup (ホットキーの設定)」画面の「Control Mode (コントロールモード)」セクションでマウスのリダイレクトを有効にできます。

4. 「Hardware Cursor (ハードウェアカーソル)」をクリックしてさまざまなカーソルの動きを有効にします。

注 – マウスを正常に動作させるために、マウスモードを変更する必要がある場合があります。ナビゲーションバーのダブルマウスカーソルをクリックして、ローカルおよびリモートのマウスカーソルを切り替えます。キーボードのリダイレクトはデフォルトで選択されています。

図 6-1 キーボード、ビデオ、マウスの選択



各設定を指定したあと、「Submit (送信)」をクリックしてそのオプションを有効にし、結果を確認するか直接手順 5 に進みます。

5. 設定を完了したら、「Submit (送信)」をクリックしてオプションを有効にします。

▼ ストレージデバイスをリダイレクトする

ローカルワークステーションまたはラップトップに接続されたストレージデバイスを有効にしてサーバーモジュールのストレージデバイスとして使用するには、次の手順に従います。このオプションは、ローカル CD/DVD ドライブから複数のリモートサーバーにソフトウェアをインストールするために使用します。

ハードドライブに格納されている CD イメージファイルまたはフロッピーディスクイメージファイルのリダイレクトすることもできます。

1. 「[リモートコンソールアプリケーションの起動](#)」(25 ページ) の説明に従って、リモートコンソールアプリケーションを起動します。
「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されます。
2. ドロップダウンリストから「**Storage (ストレージ)**」を選択し、「**Mount Device (デバイスをマウント)**」をクリックします。
これによって、対応するローカルストレージデバイスがリモートサーバーに接続され、リモートサーバーに直接接続されたストレージデバイスと同じように扱えます。
3. ドロップダウンリストからソースデバイスを選択します。
 - 選択したデバイスを実際の CD-ROM デバイスに格納するには、「Drive Name (ドライブ名)」ドロップダウンリストからドライブを選択します。
 - CD イメージファイルまたはフロッピーディスクイメージファイルをハードウェアドライブに格納するには、「Source Device (ソースデバイス)」ドロップダウンリストから ISO ファイルを選択します。

注 – マウスを正常に動作させるために、マウスモードを変更する必要がある場合があります。ナビゲーションバーのダブルマウスカーソルをクリックして、ローカルおよびリモートのマウスカーソルを切り替えます。キーボードのリダイレクトはデフォルトで選択されています。

図 6-2 「Device Configuration (デバイス設定)」 ウィンドウ

The screenshot shows a 'Device Configuration' window with three identical sections for configuring storage devices. Each section, labeled 'Storage [1]', 'Storage [2]', and 'Storage [3]', contains the following elements:

- Media name :** A dropdown menu with the text '[Choose Available Device]' and a 'Select' button to its right.
- Media type :** A dropdown menu with the text '[Choose Available Device]' and a 'Select' button to its right.
- Mount point :** A text input field.
- Encryption :** A dropdown menu with the text 'None' and a 'Select' button to its right.

On the right side of the window, there are two buttons: 'Submit' and 'Cancel'.

4. 「Device Configuration (デバイス設定)」 ウィンドウで、選択した取得方法に対応する CD 項目とフロッピーディスク項目を選択します。両方を一度に選択できます。
- フロッピーリモート : JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
 - CD-ROM リモート : JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD-ROM イメージ : JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

選択すると、デバイスがマウントされて Windows のインストールで使用できるようになります。第 7 章を参照してください。



注意 – CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワーク接続とトラフィックによって異なります。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに直接 Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行している。
- USB デバイスを接続している。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。このセクションでは、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Windows Server 2003 をインストールする手順のみを説明しています。

その他、大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアを取得してインストールする各方法に固有の要件は、[表 7-1](#) を参照してください。

表 7-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	フロッピーローカルの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、USB フロッピーディスクデバイスを USB0 (1 つめの USB ポート) に接続してください。* その他のポートに接続すると、インストールでエラーが発生します。
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

* Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) を参照して、USB フロッピーディスクドライブのリストで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールします。



注意 – Sun Blade X6250 サーバーモジュールのブートディスクには、Solaris オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「[インストール要件](#)」(31 ページ)のすべての要件を満たしていることを確認します。
2. Sun Blade X6250 サーバーモジュールの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 を押します。

図 7-1 F8 のプロンプト

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
```

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (ブートデバイス)」メニューが表示されます。

図 7-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニュー



4. Windows ローカルの方法でインストールする場合は、ここで CD を挿入します。
5. 「Boot Device (ブートデバイス)」メニューから CD-ROM を選択します。

注 - ステップ 6 で Enter キーを押したあと、次の操作をすばやく行ってください。手順を続行する前に、ステップ 7 とステップ 8 を読んで作業内容を理解しておいてください。

6. Enter キーを押します。
7. 「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。
Windows のセットアップが起動します。

注 - このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトを見逃すと、システムを再起動して手順 3 に戻る必要があります。

Windows Setup (Windows セットアップ) の初期に、画面下部に次のメッセージが表示されます。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver. (サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

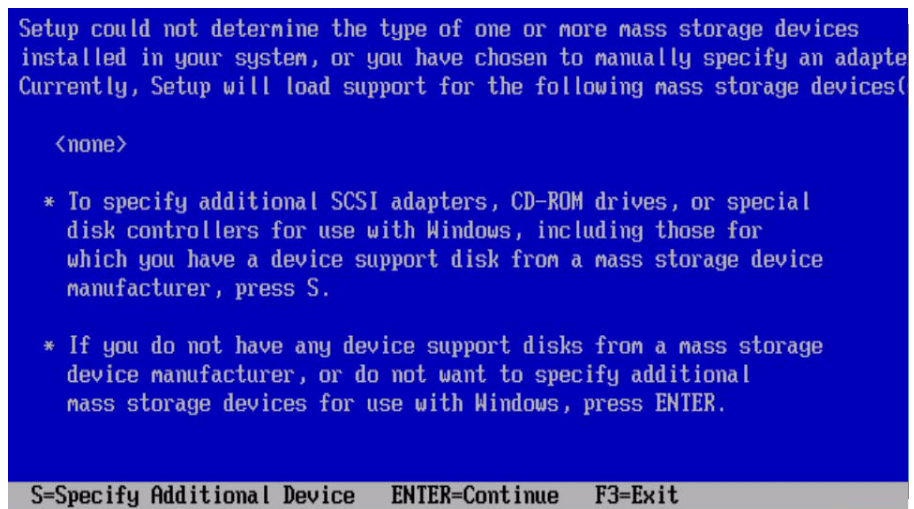
8. このメッセージに、次のいずれかの方法で応答します。
 - 大容量記憶装置ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押します。この手順は REM を装備したシステムでのみ必要です。

- 大容量記憶装置ドライバをインストールする必要がない場合は、何もする必要がありません。インストールが自動的にステップ 13 に進みます。

注 - このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、大容量記憶装置ドライバがインストールされずにインストールが進行します。この場合、大容量記憶装置ドライバをインストールするには、システムを再起動して手順 3 に戻ります。

追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。

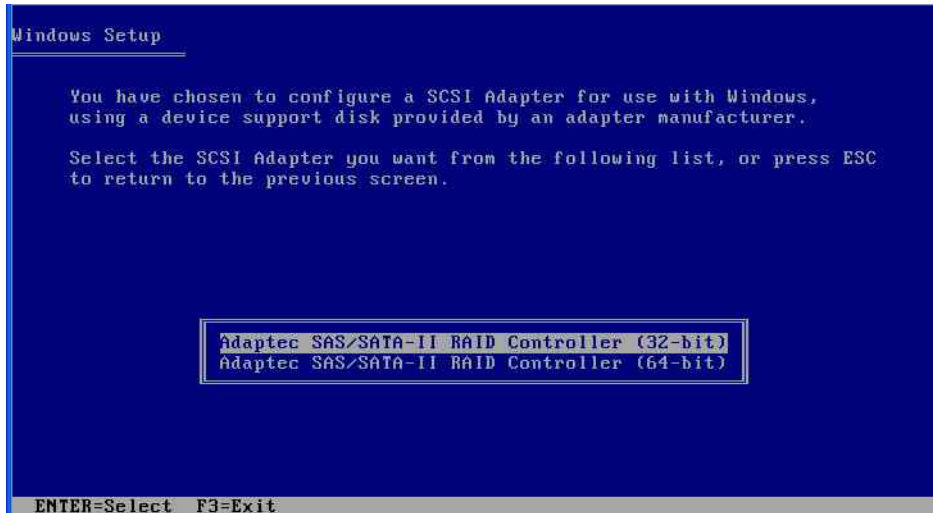
図 7-3 追加デバイスの指定画面



9. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - **フロッピーローカル**: Sun Blade X6250 サーバーモジュールにドングルケーブルで接続されたフロッピーディスクドライブ内の大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
 - **フロッピーリモート**: JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブの大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
10. S を押して、追加のデバイスを指定します。

使用可能なドライバが画面に一覧表示されます。

図 7-4 SCSI アダプタの選択画面



11. インストールする Windows のバージョン (32 ビット版または 64 ビット版の Windows Server 2003) に応じて、適切なバージョンのドライバを選択して、Enter キーを押します。

選択内容を確認し、追加のドライバを選択する画面が表示されます。

図 7-5 追加デバイスの指定画面



12. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。

図 7-6 Windows セットアップの起動画面



注 - ステップ 8 で大容量記憶装置ドライバをインストールしていない場合は、途中の手順を省略してここへ進みます。

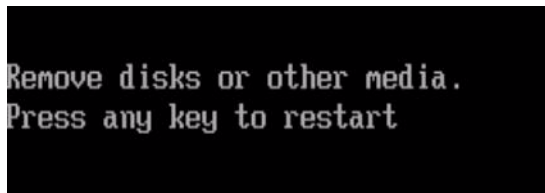
13. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップが続行されます。

14. 画面上の指示に従って、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

インストール中に、システムがリブートされ、次のメッセージが表示されることがあります。

図 7-7 ディスクの取り出しメッセージ



このメッセージが表示された場合は、次の手順に従ってインストールを完了する必要があります。

- a. 選択した大容量記憶装置ドライバの取得方法に応じて、次のいずれかの手順を実行します。
 - フロッピーローカル : Sun Blade X6250 サーバーモジュールに接続されたラップトップまたは端末のフロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーリモート : JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
 - b. いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。
15. [「重要なシステム固有のドライバのアップデート」](#) (41 ページ)に進みます。

重要なシステム固有のドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 を Sun Blade X6250 サーバーモジュール固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」(42 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」(45 ページ)

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

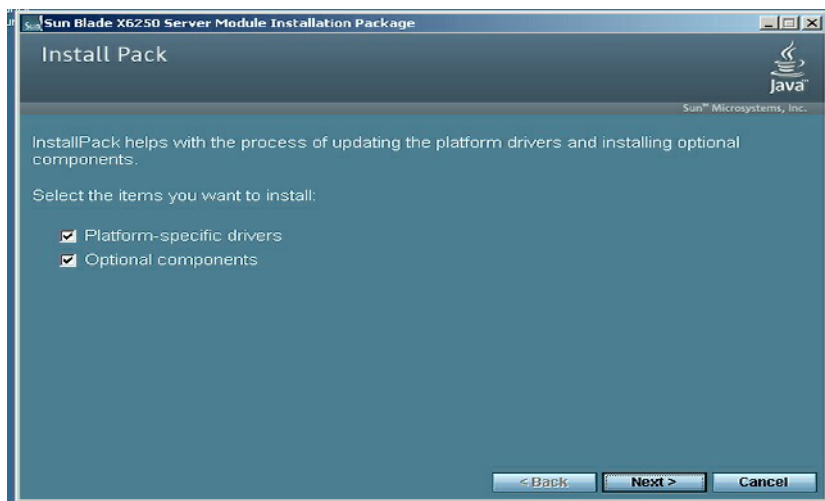
- リモートでインストールする場合は、第 6 章の説明に従って RKVM を開いて起動している。
- 第 7 章の説明に従って Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールしている。
- InstallPack.exe ファイルを「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」(9 ページ) の説明に従ってダウンロードして取得している、またはツールとドライバの CD から実行して取得している。

システム固有ドライバのアップデート

システム固有ドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

1. InstallPack.exe ファイルを、現在の場所からサーバーのローカルドライブにコピーします。
2. InstallPack.exe アプリケーションを起動します。
ファイルが展開され、Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックスが表示されます。

図 8-1 Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックス

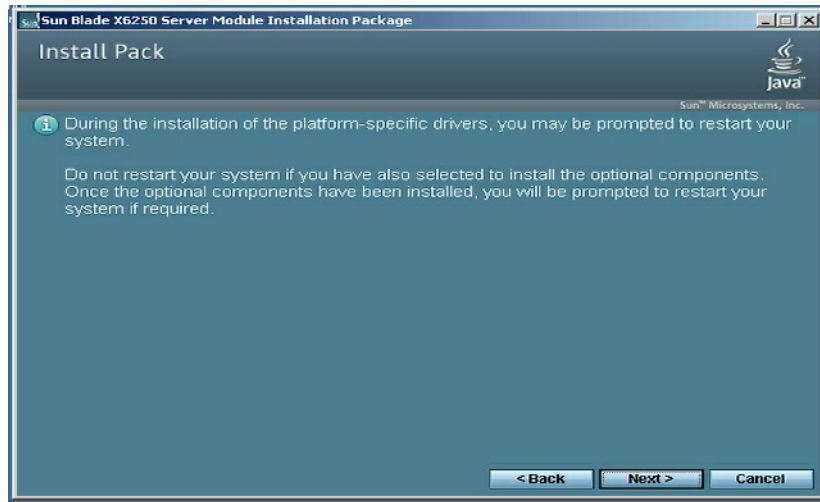


3. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

注 – 最新のドライバがインストールされるようにするには、「Platform-specific drivers (プラットフォーム固有のドライバ)」を選択してください。

「Install Pack (インストールパック)」ダイアログボックスが表示されます。

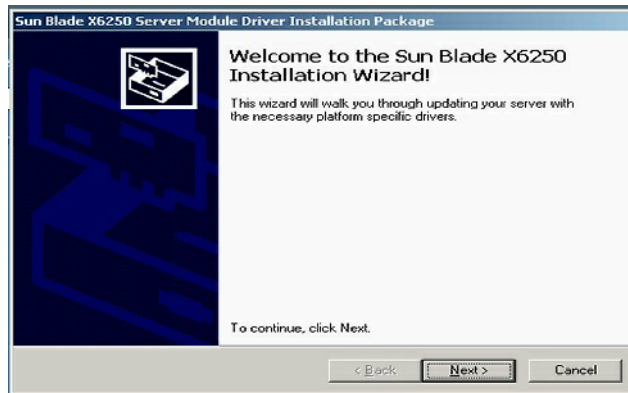
図 8-2 Install Pack (インストールパック) ダイアログボックス



4. 情報を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome to the Sun Blade Installation Wizard (Sun Blade インストールウィザードへようこそ)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-3 Sun Blade インストールウィザード



5. 「Next (次へ)」をクリックします。

「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-4 End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)



6. 「I accept this agreement (同意する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

インストールが続行され、最後にインストール完了ダイアログボックスが表示されます。すべてのドライバのインストールが完了していることを確認します。エラーが発生した場合は、システムをリブートして InstallPack.exe アプリケーションを再実行してください。

図 8-5 インストール完了画面



7. 「完了」をクリックします。
「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-6 システム設定変更画面



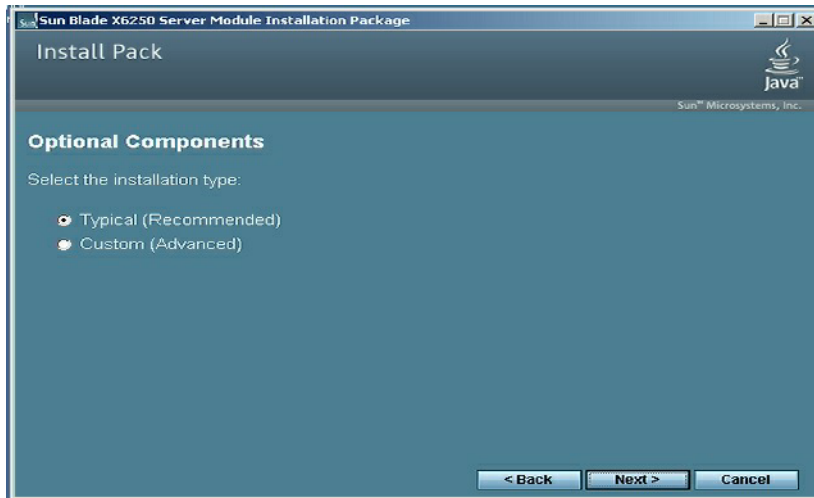
8. ステップ 3 でデフォルト設定を受け入れた場合は、「No (いいえ)」をクリックして「オプションコンポーネントのインストール」(45 ページ)に進みます。
オプションコンポーネントをインストールしない場合は、「Yes (はい)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

オプションコンポーネントのインストール

注 - オプションコンポーネントをすでにインストールしている場合は、インストールを再実行してもオプションコンポーネントは必ずしも再インストールされません。削除される場合があります。ダイアログボックスの内容を注意深く確認して、オプションコンポーネントのインストールを行ってください。

前のステップ 8 で「No (いいえ)」を選択し、図 8-1 のダイアログボックスで「Optional Components (オプションコンポーネント)」を選択した場合は、オプションコンポーネントのダイアログボックスが表示されます。

図 8-7 オプションコンポーネントのダイアログボックス



1. 推奨設定を使用する場合は、「Next (次へ)」を選択します。¹

ダイアログボックスの指示に従って、選択オプションコンポーネントを順にインストールします。

インストールしたコンポーネントに応じて、コンポーネントのデフォルトのインストール設定を受け入れるよう求めるプロンプトが表示されます。

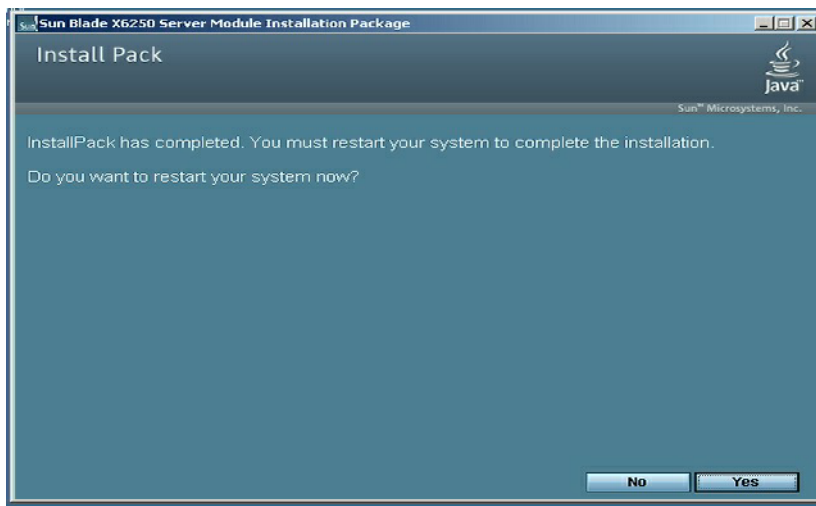
2. すべてのシステムコンポーネントのデフォルトのインストール設定を受け入れます。

注 – 推奨設定を変更すると、一部のオプションコンポーネントでは、署名されていないドライバと一緒にインストールされます。そのような場合でも、システムは正常に動作します。署名されていないドライバがインストールされるたびにセキュリティの警告ダイアログボックスが表示されますが、「はい」を選択してインストールを続行してください。

選択したすべてのオプションコンポーネントがインストールされると、Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックスが表示されます。

1. 推奨設定を変更する場合は、「Custom (カスタム)」を選択して「Next (次へ)」をクリックします。

図 8-8 Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックス



3. 「Yes (はい)」をクリックしてインストールを完了します。

RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み

この章は、Sun Blade X6250 サーバーモジュールのドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、Sun Blade X6250 サーバーモジュール固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要がある Sun Blade X6250 サーバーモジュール固有のドライバを表 9-1 に示します。

表 9-1 RIS インストール用 Sun Blade X6250 サーバーモジュール固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
Aspeed AST1000/2000 グラフィックスアダプタ	はい	はい
Intel Pro/1000 EB ネットワーク (I/O アクセラレーション機能搭載)	はい	はい
Intel(R) 631xESB/6321ESB チップセットドライバ	はい	はい
Sun STK RAID REM	はい	はい

RIS イメージへのドライバの追加

この例では、`RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch` は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- `Language` はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)
- `Dir_name` は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- `Arch` は、32 ビット版イメージでは `i386`、64 ビット版イメージでは `amd64` になります。

ここでは、RIS イメージにドライバを組み込む方法の例を説明します。

RIS イメージにドライバを追加するには、次の手順に従います。

1. RIS イメージの、`RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch` フォルダと同じ階層に、`OEM` フォルダを作成します。
2. `OEM` フォルダ内に、`$1\Sun\Drivers` フォルダを作成します。
3. `DriverPack.zip` の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
4. RIS イメージのアーキテクチャ (`Arch`) に基づき、一時的な保存場所から、32 ビットフォルダまたは 64 ビットフォルダの内容を RIS イメージの `OEM\$1\Sun\Drivers` フォルダにコピーします。
`i386` には 32 ビットフォルダ、`amd64` には 64 ビットフォルダを使用します。
5. `OEM\$1\Sun\Drivers\adaptec\arcsas.sys` ファイルを `RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch` フォルダにコピーします。
6. `RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif` ファイルのバックアップを作成します。

7. RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif
ファイルで、次のテキストを可視テキストの最後に追加します。

```
[SourceDisksFiles]
arcsas.sys = 1,,,,,3_,4,1

[HardwareIdsDatabase]
PCI\VEN_9005&DEV_0285&SUBSYS_7AAC108E = "arcsas"

[SCSI.load]
arcsas = arcsas.sys,4

[SCSI]
arcsas = "Sun STK RAID REM Driver"
```

8. Microsoft TechNet の技術文書「Creating an Answer File with Setup Manager (セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成)」の方法に従って応答ファイルを作成します。

この文書を入手するには、次の場所を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.msp#x>

9. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更を加えます。

表 9-2 Sun Blade X6250 サーバーモジュールの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
[Unattended] OemPreinstall = yes	[Unattended] OemPreinstall = yes
OemPnpDriversPath= \Sun\Drivers\ intel\chipset; \Sun\Drivers\nic; \Sun\Drivers\adapttec; \Sun\Drivers\ast	OemPnpDriversPath= \Sun\Drivers\intel\ chipset; \Sun\Drivers\nic; \Sun\Drivers\adapttec; \Sun\Drivers\ast

10. すべての .sys ファイルを \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic フォルダから RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。

11. すべての .inf ファイルを \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS フォルダから RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。

12. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```


索引

C

CD/DVD 29

E

Embedded Lights Out Manager

キーボードとマウスのリダイレクト 27

Ethernet コネクタ 7

F

FloppyPack.zip 16

J

JavaRConsole

システムの設定 23

システムの要件 24

セットアップ手順 24

JavaRConsole システムの設定 23

S

Sun Blade X6250 システムのドライバ 41

Sun Blade X6250 ドライバ 41 ~ 47

U

USB デバイスへの接続 7

W

WebGUI

ストレージデバイスのリダイレクト 29

リモートコンソールの起動 25

Windows インストールの準備 1

Windows のメディア

CD-ROM のリダイレクト 30

CD イメージのリダイレクト 30

インストールの準備 13

お

オペレーティングシステムのインストール

Windows のメディアの準備 13

ガイドライン 2

概要 1

大容量記憶装置ドライバの取得 15

大容量記憶装置ドライバの準備 12

手順 33

要件 31

か

カーソル設定 26

ガイドライン、オペレーティングシステムの
インストール 2

き

起動、リモートコンソール 25

さ

サーバー固有のドライバパッケージの
ダウンロード 9

サポートされている Windows のバージョン 4

し

- システム固有ドライバ
 アップデート 42
- シリアルコネクタ 7

す

- ストレージメディア
 リモート 28

た

- 大容量記憶装置ドライバ
 インストールの準備 12
- 取得の準備 15
- フロッピーイメージのリダイレクト 30
- フロッピーディスクの作成 16
 - Linux または Solaris の使用 21
 - Windows での手動作成 19
 - Windows での自動作成 17
 - Windows の使用 16
- フロッピーディスクのリダイレクト 30

て

- 手順、オペレーティングシステムの
 インストール 33

と

- ドキュメント
 フィードバック xi
- ドライバ 41
 - システム固有ドライバのアップデート 42
 - 大容量記憶装置ドライバ
 - 取得の準備 15
 - 取得方法の選択 11
 - ダウンロードサイト 9
 - ダウンロード手順 9

は

- ハードウェア
 - リダイレクト
 - キーボードとマウス 27
 - ストレージデバイス 29
- ハードウェアカーソル 26
- パラレルコネクタ 7

ひ

- 表記上の規則 x

ふ

- フロッピーディスクの作成
 - Linux または Solaris の使用 21
 - Windows での手動作成 19
 - Windows での自動作成 17
 - Windows の使用 16
- フロッピーディスクの作成、大容量記憶装置
 ドライバ 16

ま

- マウス設定 26

よ

- 要件、オペレーティングシステムの
 インストール 31

り

- リモートインストールサービス (RIS)
 - 必要なドライバ 49
- リモートカーソル 26
- リモートコンソール
 - 開始 25
 - 起動 25
 - 問題 26
 - リダイレクト
 - キーボードとマウス 27
 - ストレージデバイス 29
- リモートストレージデバイス 28

ろ

- ローカルカーソル 26